

活動指導案

実践団体名

西大和6自治会連絡会

2009-16

■基礎データ

① タイトル

青色防犯パトロール

② 活動の概要

地域住民の手によって継続的に地域内の青色防犯パトロールを行い、地域の犯罪現象と防犯意識向上を目指す。

③ 目標・ねらい

①地域の犯罪を減少させる、②防犯意識を向上させる、③地域のキズナを高める

④ 活動で上げることが
できる力・能力

①地域住民の防犯意識、②地域住民のキズナ

⑤ 対象者

地域住民、児童・生徒(学校PTA)

⑥ 活動・作業形態

青パト車による地域の見回りを実施する

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

(参考)青パト車(陸運局で登録)17台、防犯帽・ベスト・腕章・ジャンパー(隊員数)、実施者証(警察で交付)(資格者数)、青パト標章(17台)、放送機材(2セット)、回転灯(7こ)、資格者25人、隊員43人

⑧ 所要時間

巡回は1回1時間、通年にわたって実施
(時間は、主として下校時間、夕方・夜間についてはパトロールを実施する人の都合にあわせて時間を設定)

⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

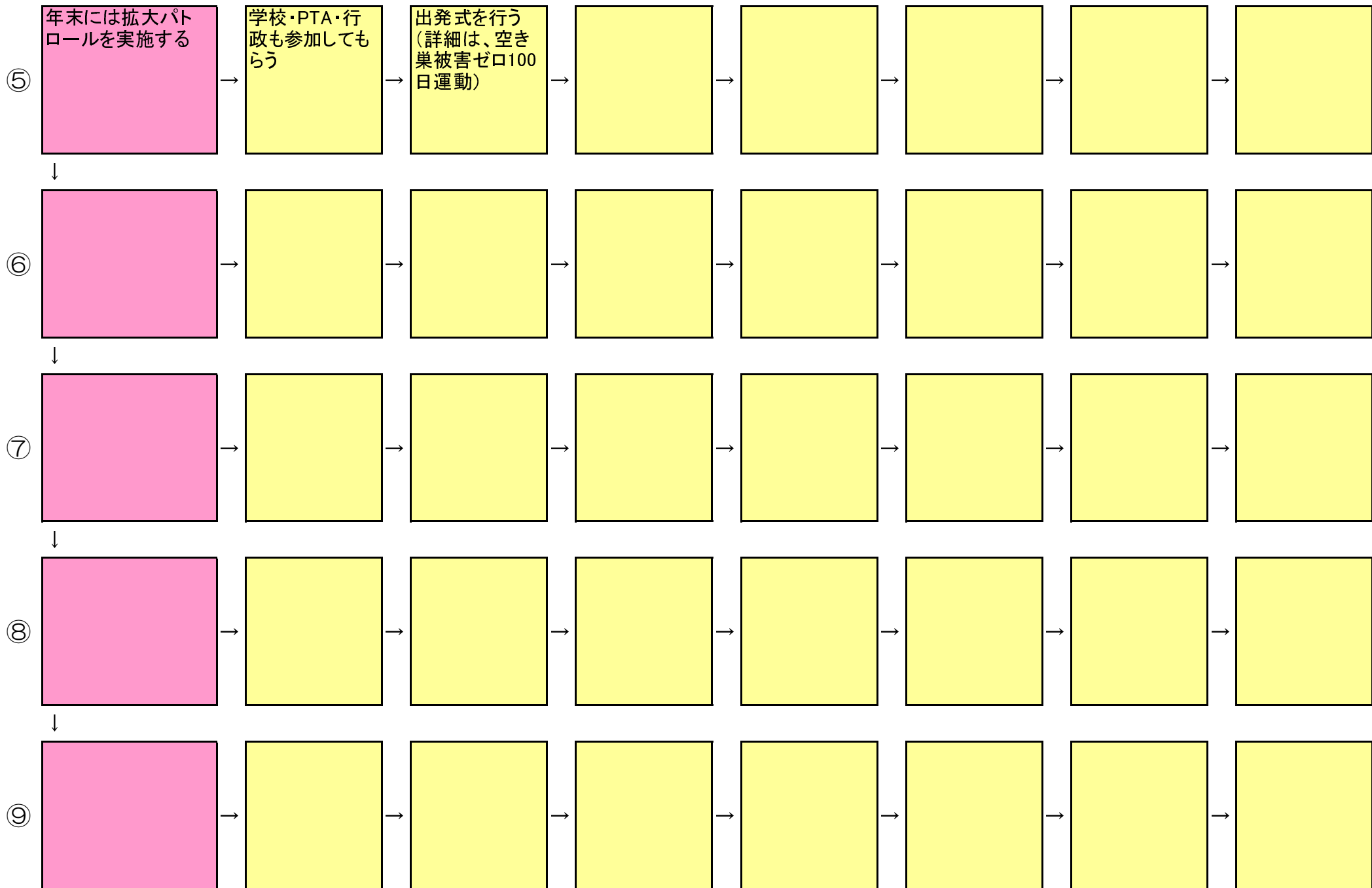
2人(巡回する際の最小単位)

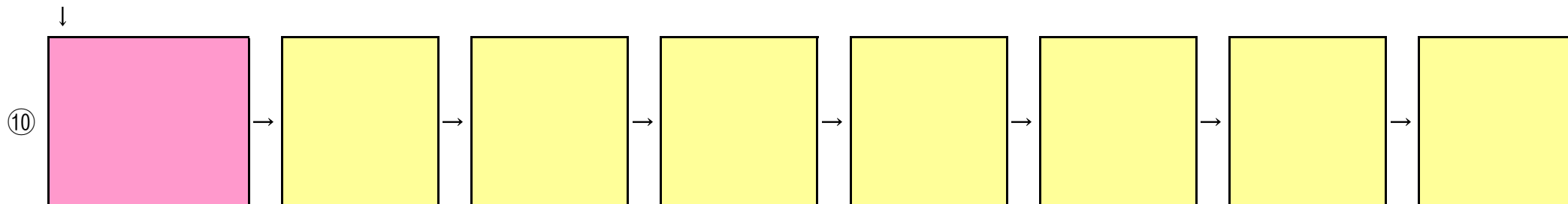
⑩ 必要経費
(所要額、財源)

経費:1自治会あたり年間5000円を補助、ガソリン代、初期経費代(放送機材1セット5万円×2、回転灯1台1.3万円)
財源:各自治会の分担金

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

地域における犯罪件数の減少、参加者の増加

②その他の評価

青色防犯パトロールの継続実施

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

- ・事務局を作ることにより、継続した実施が可能となった
(継続可能な事務局の結成→元自治会長で構成)
- ・交通安全には、気をつけて青パトを実施する
(事故による保障の問題等が起きないように)
- ・青パト日誌の作成

②参考資料等

※活動指導案作成のための準備物

- ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 西大和6自治会連絡会

■基礎データ

2009-17

① タイトル

空き巣被害ゼロ100日運動を実施する

② 活動の概要

・警察署と連携して、年末の100日間、空き巣被害ゼロを目指し、青色防犯パトロールを主体に、地域を巡視する ・毎年9月23日はスタートの日であり、出発式を行う ・以後警察からの防犯の情報を週単位で連絡を受け、当連絡会専用の掲示板に張る

③ 目標・ねらい

地域住民に防犯意識の輪を広げ、連帯感を強める

④ 活動で上げることが
できる力・能力

地域住民の防犯意識、6自治会の一体感を醸成

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民

⑥ 活動・作業形態

出発式や防犯パレード、期間中防犯教室の開催、各自治会毎の見回り強化、専用掲示板7ヶ所による経過報告

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

青色パトロールカー6台、回転灯6台、スピーカー2台、掲示板用ポスター、テント、椅子、机、プラカード、自治会回覧、実施場所

⑧ 所要時間

①100日運動期間中：月2回、3自治会1班の構成で約50分の巡回
②出発式：約2時間、各丁輪番青色パトロール約1時間、各丁単独パトロール約1時間、年末特別パトロール約1時間半

⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

①100日運動期間中：講習受講者45名による交替巡回
②出発式：約200名、③パトロール実施（輪番パト2～3名、単独パト15人、年末特別パト約10人）

⑩ 必要経費
（所要額、財源）

所用額：ガソリン代を各1車につき、200円の補助
財源：自治会の分担金

■活動の流れ

↓活動の流れ

→活動の留意
点、資料など
<1>

<2>

<3>

<4>

<5>

<6>

<7>

① 実施内容を決める

事務局が草案を作成する(日程、予算、参加者、人数、会場、出発式、100日間活動の内容)

6自治会役員会で草案を検討する。

100日運動実施期間中の6自治会の各自治会単位の犯罪件数を知らせていただくように所轄警察に依頼

② 出発式の事前準備を行う。

事務局が草案を作成する(役割、式次第、参加者名簿、案内状等)

ドラッグストアの駐車場で実施するので開店時間までに終了する計画とする。

事務局が、公的関係者への出席確認と案内状の手配を行う。(参考:出発式の写真・案内状)

事務局が、各自治会参加者への回覧・ポスターの作成を行う。

事務局が出発式での中学校ブラスバンド演奏の応援を要請する。

事務局が警察のパトロールカー(1台)、県・町の青パトに参加を依頼する。

③ 準備するもの(出発式)

各自治会の備品のテント、机・椅子等の集配送を行う。

ブラスバンドの演奏道具の集配送を行う。

出発3時間前より役員、会員が会場の設営を行う(テント、看板、着席名簿、音響、資料、お茶、受付名簿)

④ 出発式を実施する。

出発式を実施する(参考:式次第)

2班に分かれて警察パト1台、青色パト4台でパレード形式で実際のパトロールを実施する。

各自治会の歩き隊(30~35名)と待ち合わせ場所で合流し、バトンタッチしていく。

終了後、事務局が礼状を作成し、代表と事務局による御礼の挨拶回りを行う。

↓

⑤

100日間活動を実施する。

警察署生活安全課から当該地区の犯罪発表情報を入手し、専用掲示板に事件発生状況の共有をす

警察署生活安全課の指導で各自治会単独で防犯講習会の開催する。

各自治会独自による防犯巡回を実施する。

広報担当者が日誌を作成し、交番だよりの速報や事件の速報を回覧する。

空き巣被害や不審者情報の速報は警察から事務局長に入り、各自治会長へ通達する。

自治会が各地区の犯罪件数を15日毎に自ら看板に記入する。

⑥

反省会を実施する。

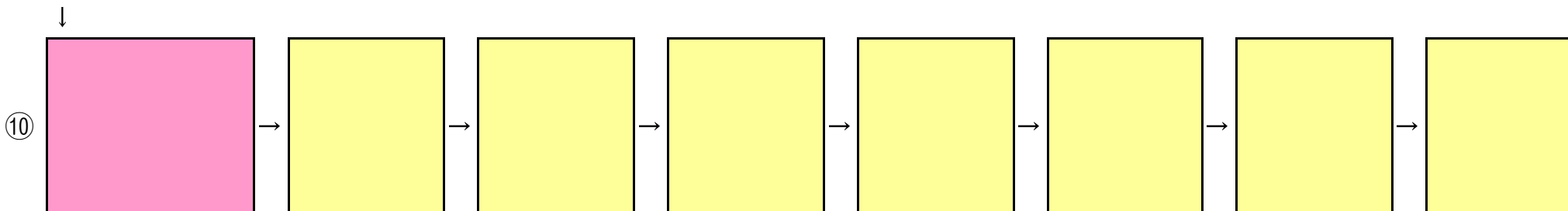
1月の6自治会役員会で実施する。

空き巣被害件数等を確認する。

⑦

⑧

⑨



■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

地域の空き巣被害数、動員参加者数、地区毎の100日運動期間中の犯罪件数

②その他の評価

「自分の町は自分で守る」という地域連帯感の熟成

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

①地域の各種団体の取り組みや情報を把握しながら日程を決めること ②取組後参加団体への礼状と挨拶回りなど細かな配慮、③各地区で犯罪件数の少なさをきそう、④自治会が各地区の犯罪件数を15日毎に自ら看板に記入する。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物：①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 西大和6自治会連絡会

■基礎データ

2009－18

① タイトル

環境美化パトロールを実施する

② 活動の概要

「割れ窓理論」に基づき各自治会毎の役員と事務局が各自治会内を巡回し、環境面から不審者の侵入を防ぐ。古くなったポスター看板等を新しくする。放置されたゴミを収集撤去する。

③ 目標・ねらい

犯罪者が侵入しにくいきれいな町にする。

④ 活動で上げることが
できる力・能力

地域住民による犯罪対策意識の向上と危険個所の確認、犯罪者が侵入しにくいきれいな町

⑤ 対象者（受ける側）

地域住民、児童・生徒

⑥ 活動・作業形態

各自治会の会長・副会長・防犯担当者、子供会、事務局員が見回りを行いポスター・のぼり等の取り換えを行う。放置ゴミの回収を行う。。

⑦ 準備するもの
（道具、材料等）

新しいのぼり・ポスター、ゴミ袋、他小道具（ペンチ、針金、ごみはさみ、筆記具等）

⑧ 所要時間

巡回は、約1～2時間で5～6月（春1回）、10～11月（秋1回）の年2回を日中に実施する

⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数）

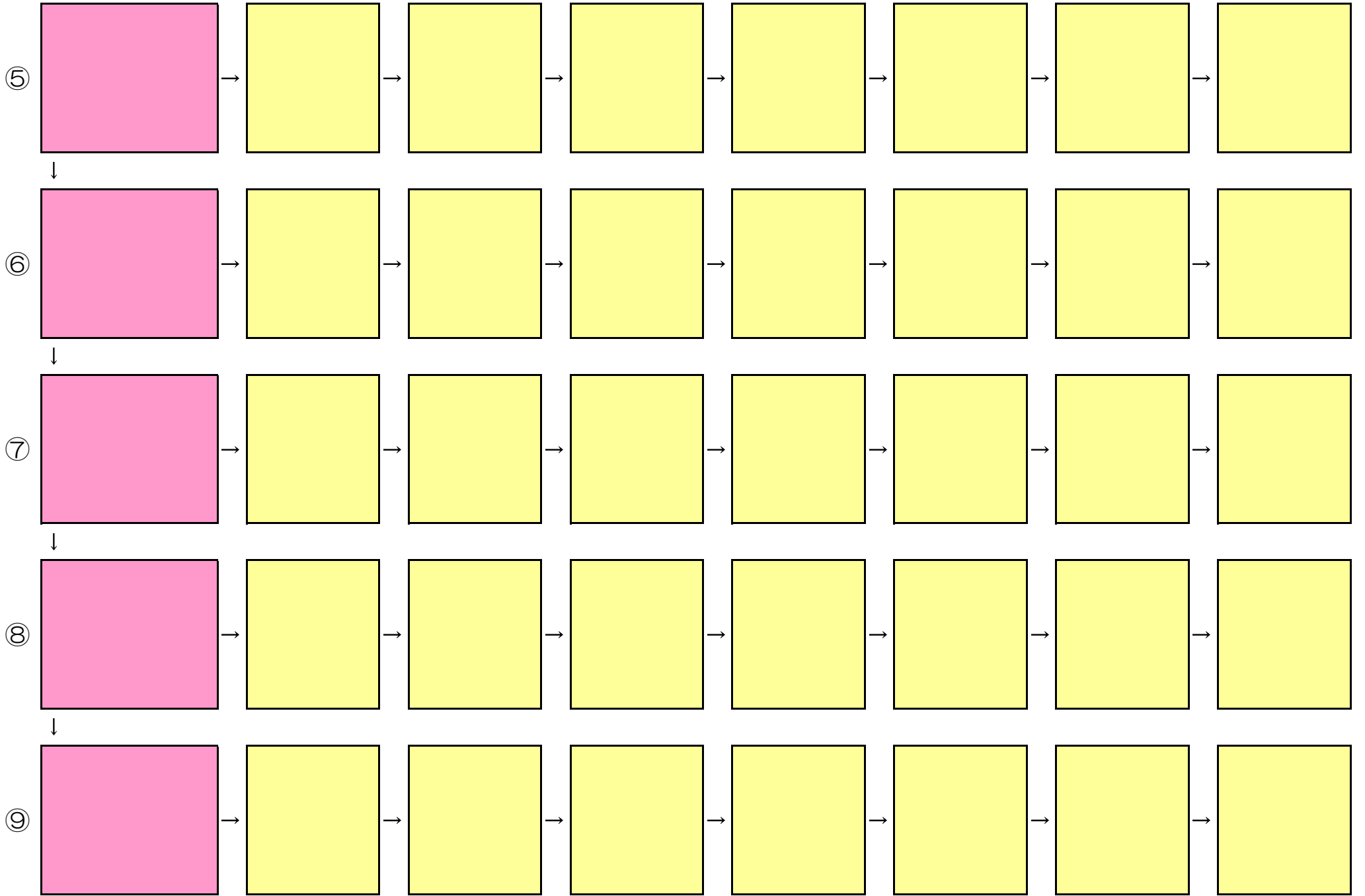
各自治会の会長・副会長・防犯担当者、子供会、事務局員 10～15名

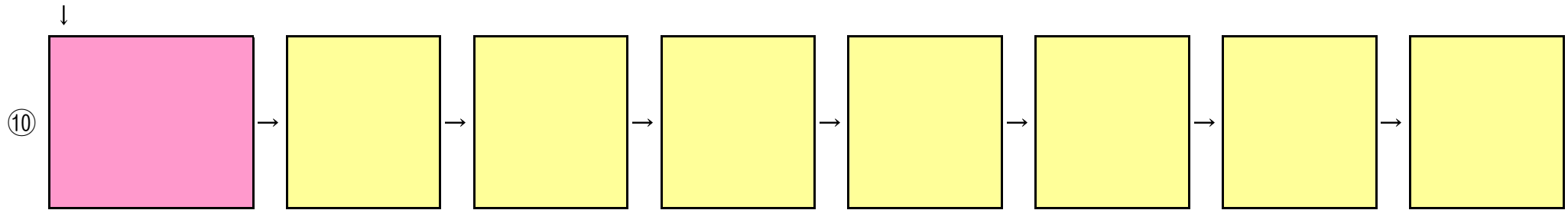
⑩ 必要経費
（所要額、財源）

経費：ポスター代（ラミネートフィルム加工のもの）
財源：自治会の分担金

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

地域における犯罪の件数 参加者の数、ポスター・のぼりの張替え枚数

②その他の評価

「自分の町は自分で守る」という地域連帯感の熟成、防犯・防災意識の高揚

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

各自治会の取り組みや情報を把握しながら日程を決めること、各自治会の主体性を尊重し、事務局主体とならないこと。事務局が活動に同行すること。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 西大和6自治会連絡会

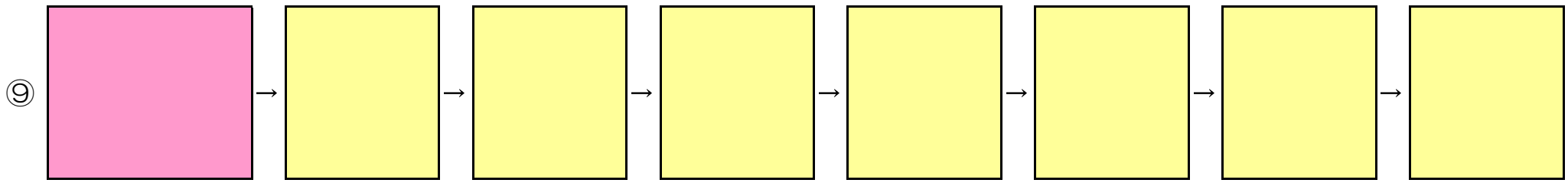
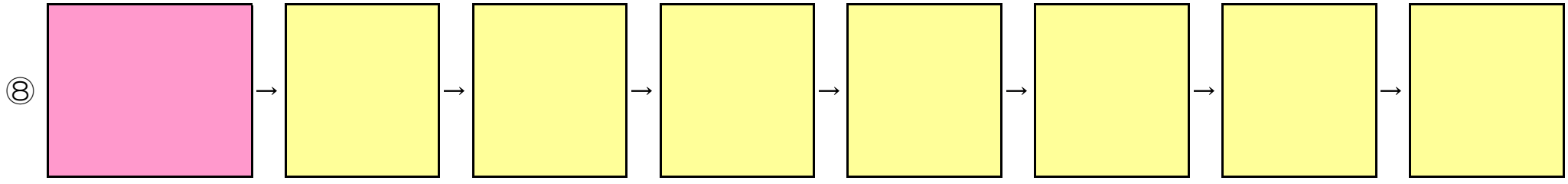
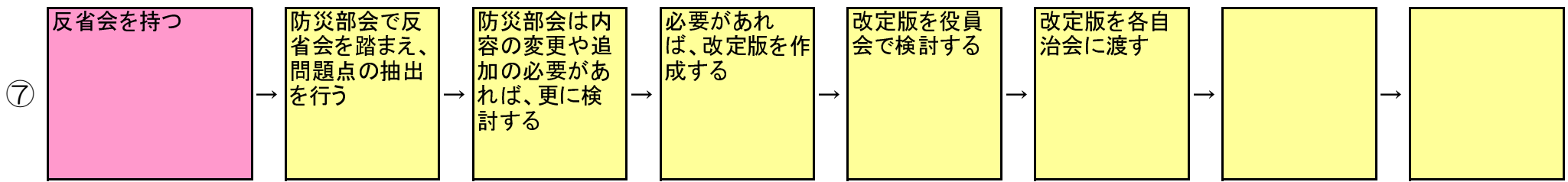
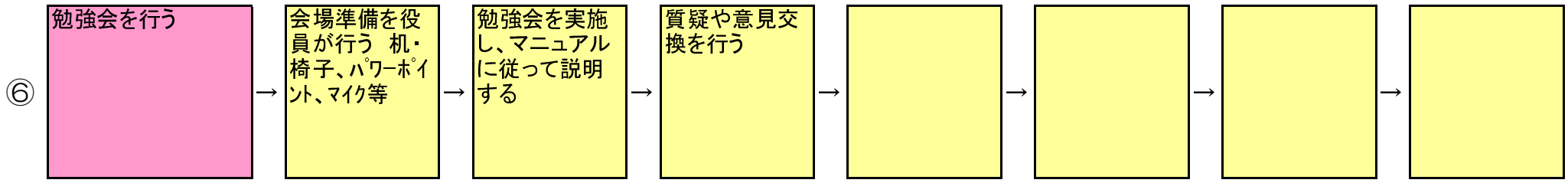
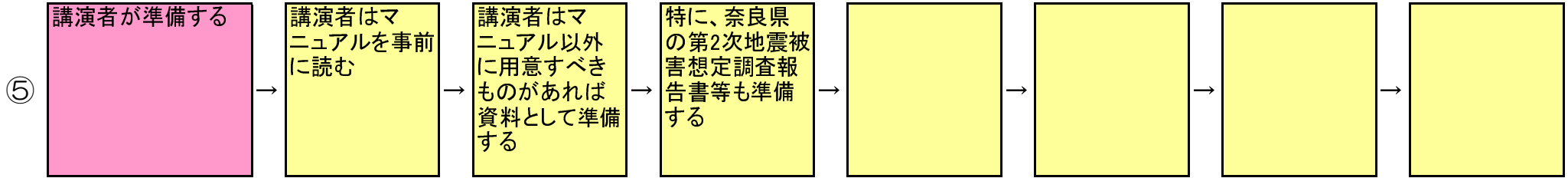
■基礎データ

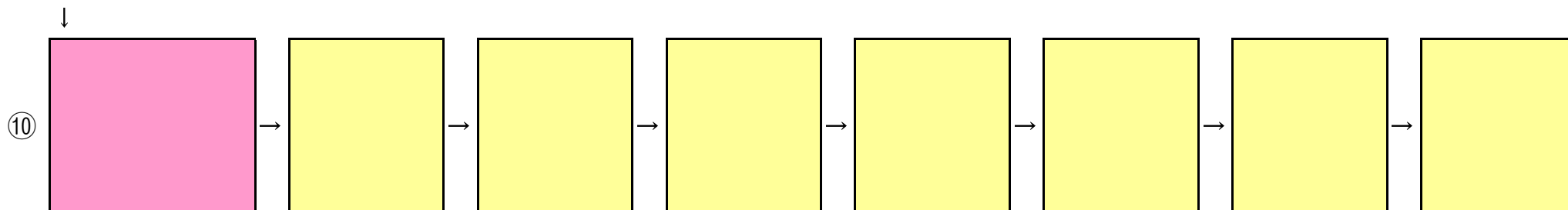
2009－19

- | | |
|---------------------------|--|
| ① タイトル | 地震災害対策マニュアルを作成し、毎年勉強会を実施する |
| ② 活動の概要 | 大地震が発生すれば自治会は何ができるか、何をすべきか、検討してマニュアルを作成し、毎年度新自治会役員を対象に勉強会を持つ |
| ③ 目標・ねらい | 大地震災害扶発生を想定し、日頃から準備しておくべきもの、発生したらどのように行動すべきか、日頃より危機管理意識を持たせる |
| ④ 活動で上げることが
できる力・能力 | ①防災・減災意識の向上 ②ご近所との協調性 ③災害救出作業のしゅみ ④事前の危機管理意識 |
| ⑤ 対象者（受ける側） | 地域住民（自治会役員） |
| ⑥ 活動・作業形態 | 勉強会 意見交換会 |
| ⑦ 準備するもの
（道具、材料等） | 当連絡会作成の地震災害対策マニュアル、その他資料（奈良県の第2次奈良県地震被害想定調査報告書など） |
| ⑧ 所要時間 | 約2時間 |
| ⑨ 必要なマンパワー
（実施者、役割、人数） | 4人（講演者1、事務局員2～3人） |
| ⑩ 必要経費
（所要額、財源） | 特になし（改定を要するときは、B4のファイルに差し込むようになっていて、その印刷代 部数は200部くらい） |

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

各丁ごとの勉強会の参加人数 会場内の質問や意見の数とその内容

②その他の評価

役員会での反省

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

周囲の新しい環境とマッチする必要がある、絶えず新しい外部の動きに注目する 問題点があれば、すぐに然るべき方にお聞きして対応する

②参考資料等

神戸市「人と防災未来センター」での体験、特に語り部さんのお話し 第2次奈良県地震被害想定調査報告書

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 西大和6自治会連絡会

■基礎データ

2009-20

① タイトル

防犯・防災懇談会を開催する

② 活動の概要

地域の関係諸団体(町役場、警察、消防署・消防団、学校・幼稚園・保育所、同PTA、たんぽぽ隊、民生児童委員、シルバークラブ、地域ボランティア団体等)のリーダーに、当連絡会の本年度の方針を説明し、懇談して、年度初めの顔合わせをする

③ 目標・ねらい

①当連絡会の目標を明確に伝える ②関係者から広く意見を聞く ③各関係者の理解と協力を得る

④ 活動で上げることが
できる力・能力

①地域住民の防犯・防災意識の向上 ②各団体と情報を共有し、連携を図る ③各団体との交流の促進

⑤ 対象者(受ける側)

町役場(町長、担当部長)、警察、消防署・消防団、学校・幼稚園・保育所、同PTA、たんぽぽ隊、民生児童委員、シルバークラブ、地域ボランティア団体)

⑥ 活動・作業形態

地域内コミュニティセンターにおいて約90名が一同に会しての懇談会

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

年度別活動記録、組織図、新年度活動方針、地域マップ図、参加者名簿、名札、活動ポスター、お茶等

⑧ 所要時間

約2時間

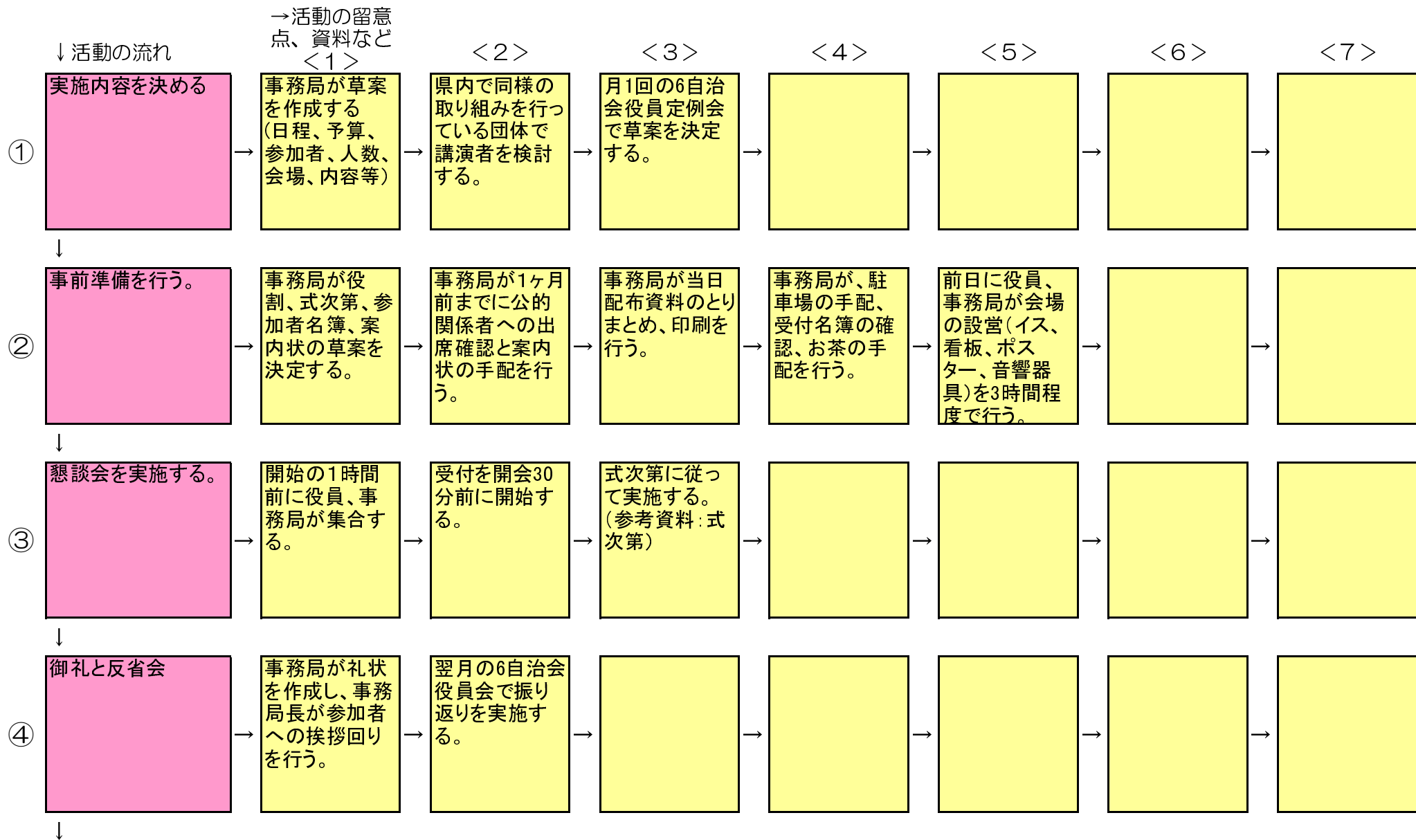
⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

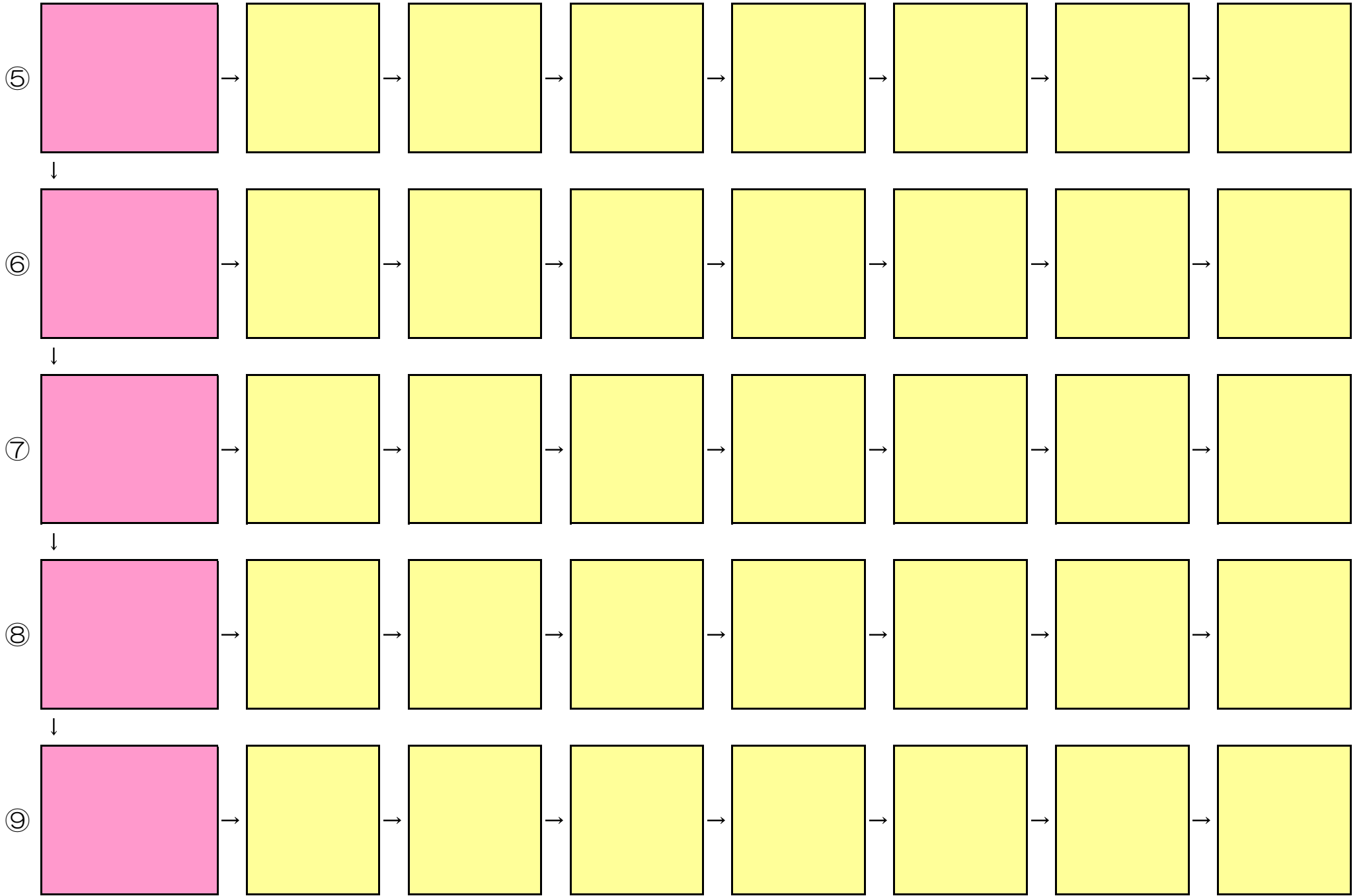
各丁自治会長6人、副会長6人、事務局9人 計21名

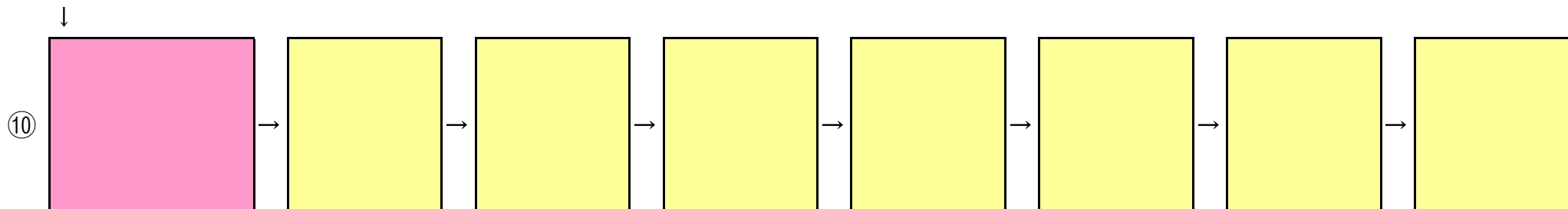
⑩ 必要経費
(所要額、財源)

所要額:約2万円 会場費、資料費、お茶代
財源:6丁の分担会費より

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

懇談会参加者数、各参加団体の協力の取り付けやすさ

②その他の評価

「自分の町は自分で守る」という地域連帯感の熟成

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

①地域の各種団体の取り組みや情報を把握しながら日程を決めること ②取組後参加団体への礼状と挨拶回りなど細かな配慮 ③県内で同様の取り組みを行っている団体に講演を依頼する。

②参考資料等

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等

活動指導案

実践団体名 西大和6自治会連絡会(桜ヶ丘2丁目自治会)

■基礎データ

2009-21

① タイトル

子どもサバイバルキャンプを実施する

② 活動の概要

子ども(小学生)を対象に、町指定の避難所で、オーバーナイトの疑似避難所体験をし、楽しく遊びながら、防災の基礎知識を習得する
同時に大人は炊出しなど実施訓練をする

③ 目標・ねらい

①子どもに防災の基礎知識を習得させる ②子どもに上下関係の友人の付き合い方をグループ内の1人として体験させる ③自治会活動(ボランティア活動)を意識させないで自然に体得させる ④大人は防災資機材として何が必要か検証する、かつご近所のコミュニケーションを図る

④ 活動で上げることが
できる力・能力

①子どもには、防災カルタ、スゴロク、本読み、工作等を通じて防災について、自分で考える力 ②大人が使う救出用資機材、リヤカー、ジャッキ、バール、担架、1輪車等実際に使用して、自信を持つことにより、使用できる能力 ④大人は炊き出しのレシピややり方のノウハウを会得し、実践できる能力

⑤ 対象者(受ける側)

子ども(小学生が対象、兄弟で来る場合、中学生は問わない)

⑥ 活動・作業形態

屋内外で防災知識の習得 公民館内で室内遊び、グラウンドで実技

⑦ 準備するもの
(道具、材料等)

野外用テント、自治会テント、机・椅子、炊き出し用鍋・コンロ、救出用資機材、水タンク、水消火器、プロジェクター・パソコン、キャンプファイヤー用の薪等、その他教材1式

⑧ 所要時間

2日間(当日の午後から翌日の昼まで) 24時間

⑨ 必要なマンパワー
(実施者、役割、人数)

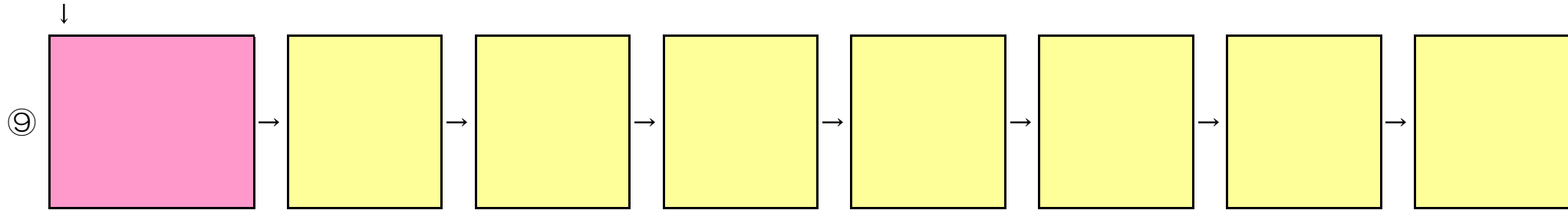
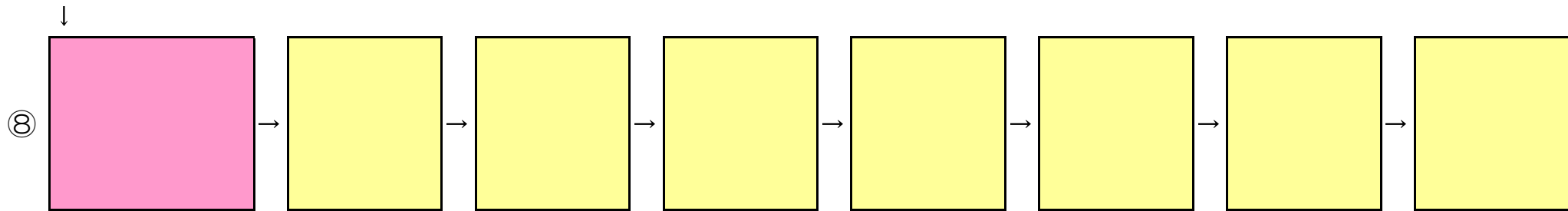
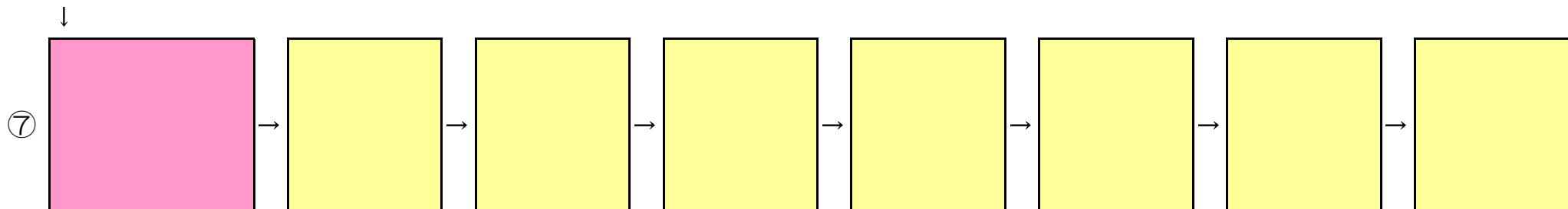
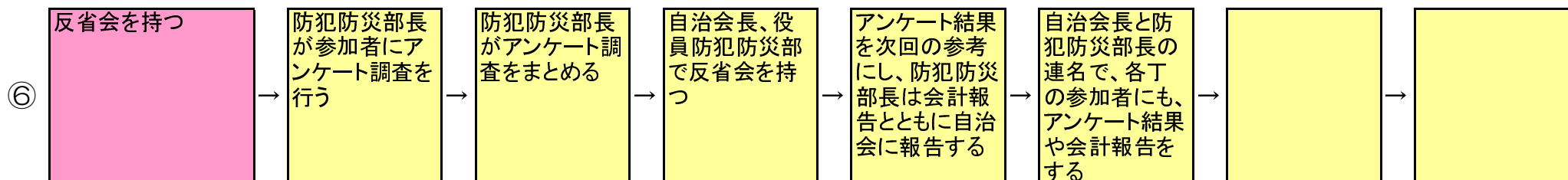
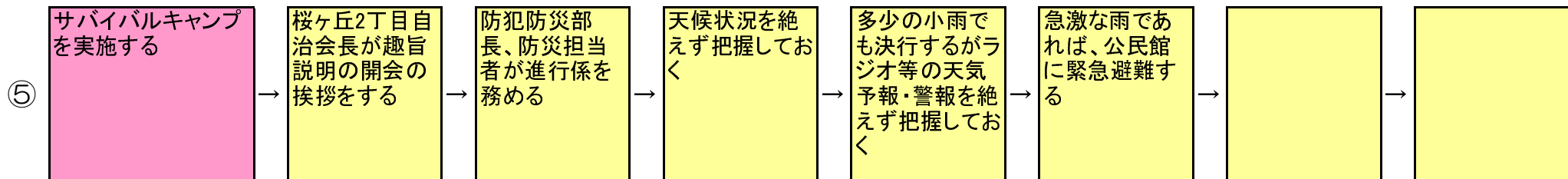
約15人(指導者2、会長1、副会長2、防犯防災部員6、支援者4) 参加者数による

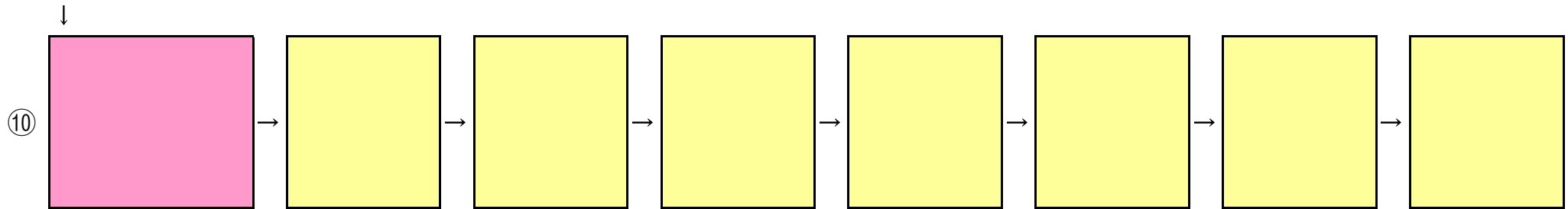
⑩ 必要経費
(所要額、財源)

約7万円 桜ヶ丘2丁目自治会費および他丁の参加者より 参加者数による

■活動の流れ







■活動の評価方法

①数や量の変化による評価

子どもの参加者数

②その他の評価

参加者アンケート調査結果

■備考・その他（活動のコツなど）

①活動のコツなど

楽しく遊ぶ 上下で遊ぶ 青年部(お兄さん、お姉さん)の協力を得る 主催者自身が楽しむ

②参考資料等

(元)県防災統括室の楠田氏訪問時の事例紹介でスタートした 防災統括室の資料 内閣府等の資料

※ 活動指導案作成のための準備物 : ①写真(活動の代表的な写真、流れがわかる写真等)、②参加者への配付資料、③実施者向けマニュアル・資料 等